


## 自分らしくいこう！

そらのくみ　　

が産まれた時はちょうどコロナが広まりだした時でした。予定帝王切開で入院の日が決まっていたのですが、当時年少だった兄のが入院の日からコロナによる休園。そして妹の誕生を楽しみにしていたですが、まさかの病院が子どもの面会禁止になってしまい、結局退院まで会えず。その後もコロナの影響により、イレギュラーな中での二人育児が始まりました。

はプレイルームに入るまでは人見知り・場所見知りがありましたが、プレイルームで少しずつ遊びの幅を広げ、年少の時には大好きな水遊びで華が開きました。水道の蛇口は常に噴水のように全開。砂場はいつも池となり、毎日びしょ濡れの着替えを2～3セット持って帰ってくる日々。しまいには美里先生から、画用紙に「せいきゅうしょ　すいどうだい　ひゃくおくえん」とクレヨンで書かれた手紙が届くという伝説も（この手紙は今も大切にしまってあります）。幼稚園で目一杯楽しませていただき、四年生になった今も遊びは全力です。

一方のは、兄よりも初めての事・人・場所に強い不安を持ちとても慎重派。又、嫌な気持ちや自分の思いと違う事があると全力で拒否し、納得するまで思いを決して曲げず貫き通します。

プレイルームは部屋に入るのも怖くて抱っこ。入室してからも床に足がつくことが不安で抱っこで過ごす中、周りの様子を観察し少しずつ長門先生にも自らバイバイ出来るようになり、安心できる場所ということが分かってきたようで、誰よりもゆっくりと石橋を叩いて渡ってきたプレイルームの一年でした。

登園初日の朝バスは案の定、大号泣。園でずっと泣いているだろうという心配をよそに、帰りは笑顔で帰ってきました。翌日のバスも泣くだろうなと覚悟していたのですが、なんと泣く事なく自ら乗り込んでいきます。拍子抜けしたと同時に頼もしくも感じました。後にも先にも泣いたのは初日の朝バスだけ。その後は泣くことも行き渋りもなく今に至ります。

年少はとにかく「観察」の日々でした。周りの子ども達がどんな遊びをしているのか、誰がどこにいるのかなど周りの様子を見て楽しみ、誰もいなくなった時にこそっと遊んでみたり。少しずつクラスメイトや同じバスの子の名前がちらほら出てきました。ただ、行事や初めての事に関しては一気に守りの姿勢へ。初めての事全てに慎重でした。

年中になると、クラスメイトと一緒に遊ぶ姿が増えたと同時に、少しずつ社交的になり、色んな先生や登園してきたクラスメイトのお母さんにも自ら話し掛けるようになりました。「ちゃんから話し掛けてくれるようになって嬉しい」「ちゃん積極的になってきたね」と同じクラスのお母さん方が言ってくださることが増え、なりに自分の居場所を見つけ楽しんでいるんだなと嬉しく思うと同時に、叶望の変化に気付き一緒に喜んでくださるお母さん方の優しさにとても心が温まりました。

そして年長になり、お泊り保育など年長だけの行事をはじめ、クラスみんなでの話し合いも、まずは周りの様子をじっくり見て、「やらない」という時があっても、後でやってみる姿が見られるようになりました。運動会ではやらない選択をした種目でも、楽しそうな雰囲気に後押しされ一回だけやってみたり、綱引きは始めに少し引っ張っただけでしたがそれで満足。ジャンプ競争ではゴールテープ係をとても楽しそうにやっていました。

『なりに自分がどうしたいのかを考え判断しやってみる』。この繰り返しをむらさき幼稚園では温かく見守り、思いに寄り添い、のペースを大切にしてくださったからこそ、少しずつチャレンジしてみる姿へと成長出来たのだと思います。先生方、保護者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

この先、どうしたいのかを急かされてしまう場面や思い通りにいかない事、色んな壁や葛藤にぶち当たることもあるでしょう。でも、むらさきで培った逞しさを胸に、今の叶望ならどんな困難も乗り越えていけると信じています。どんな時も自分らしく輝いていってほしいなと願っています。

